

3年 道徳学習指導案

3年1組 40名 指導者 尾崎 徳彦

1 総合主題名 たくましく生きる

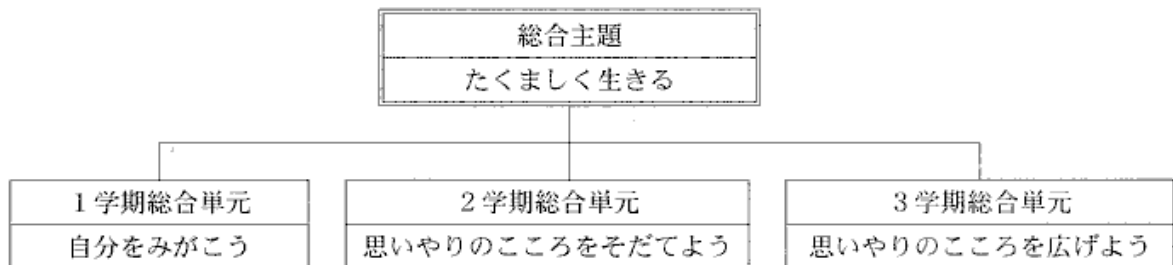
2 総合主題について

3年生になり、児童の活動には広がりが見られるようになった。理科や社会科などの3年生から始まった学習では、新しいことを始めるたびに目を輝かせて熱心に取り組んでいる。休み時間には友達と運動場へ出てドッジボールをして遊ぶなど活動的な児童も多い。教師の手伝いも率先してすることができ、何事にもやる気満々で取り組む姿が目立つようになってきた。一方で、友達同士のかかわりでは問題となる行動が多い。自分の意見や考えを強く主張するあまり友達とけんかになってしまったり、自分が悪いと分かっているにもかかわらず素直に謝れなかったりすることがある。また、自分としては精一杯取り組んでいるつもりでも、まわりの友達への配慮ができずに、友達を悲しませてしまうこともよくある。

担任としては、今年一年で、子どもたちの活動的な姿、意欲的な姿を生かしていくことを基本としながら、自分を大切に思うことと同じように、友達も大切な存在であることを理解させたい。互いのよさを知り、認め合い、心を通わせることを通して友達の輝きにも気づかせたいと思っている。3年生は、友達との関係がより深くなっていく時期である。けんかや仲直りを繰り返しながらも、自分勝手な言動を押さえ、友達と自分の両方のよさを認めあえることの大切さに気付いてほしい。そして、様々な活動を力いっぱい取り組むことで、周りの人や地域の中で自分を高め、さらにたくましく成長していったほしいと願い、総合主題「たくましく生きる」を設定した。

1学期の総合単元「自分をみがこう」では、自分なりの目標を達成するためにねばり強く行動することや、気持ちのよい生活をするためには自分には何ができるかよく考えて行動できるように支援してきた。2学期の総合単元「思いやりのところをそだてよう」では、さまざまな学校生活を通して、友達と互いに認め合い、信頼し、助け合う心情を育てたい。3学期総合単元「思いやりのところを広げよう」では、日ごろお世話になっている人々とのかかわりに目を向け、学校や地域を愛する心情を育て、ともに気持ちのよい生活を送ってほしいと考えている。

総合主題「たくましく生きる」の単元構想は次の図のとおりである。



3 2学期総合単元名 思いやりのところをそだてよう

4 総合单元について

(1) 单元設定の理由

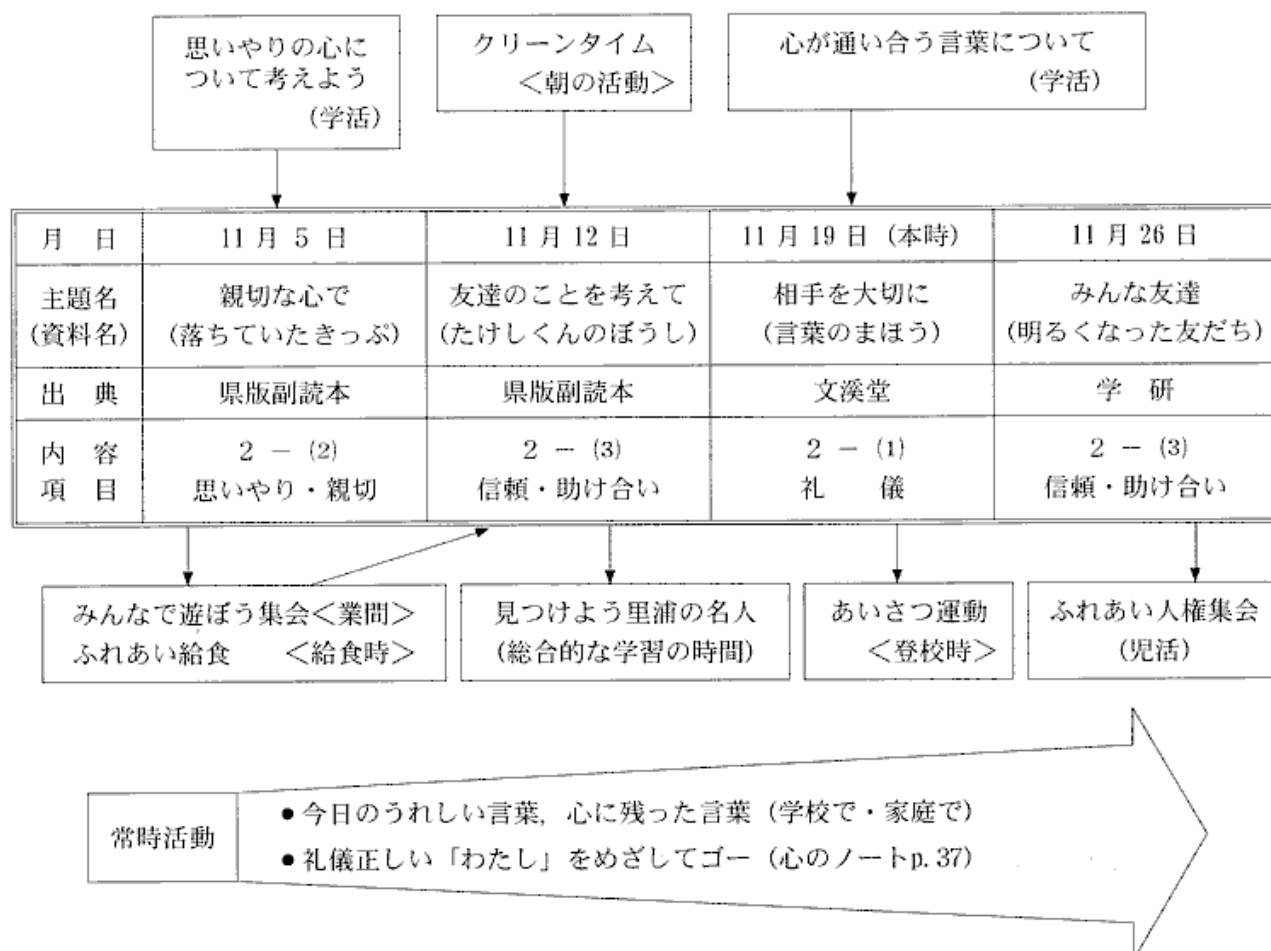
1学期の総合单元「自分をみがこう」では、今よりもっとよくなるために、自分で立てた目標に向かって最後までやり遂げようと努力することの大切さや、よく考えて行動することの大切さを学んだ。自分を高め自分のよさをさらに発揮してほしいと取り組みを続けたことで、掃除や係り活動では、最後まで責任をもってやりとげようとする態度が見られるようになってきた。また、3年生として学校のきまりを守り、みんなで気持ちのよい学校生活を送っていこうとする意欲も見られるようになってきた。しかし、自分の感情のままに振る舞い、相手のことを考えない言動で友達を傷つけてしまったり、けんかになってしまうこともある。

そこで、2学期の総合单元「思いやりのこころをそだてよう」では、友達のよさやがんばっているところを互に見付け合い、認め合ってクラス全体へと広げ、温かい学級集団づくりをめざしていきたいと考えている。

毎年行われているみんなで遊ぼう集会やふれあい給食は、異学年の児童とともに活動することを通して、助け合いながら思いやりの心を学び、心のふれあいをひろげる場となっている。これを道徳の学習「落ちていたきっぷ」「たけしくんのぼうし」につなげ、感じ取った思いやりの心を行動に移していくことの大切さを学ばせたい。さらに、相手の立場を思いやり、人として尊重した言動をすることの大切さを「言葉のまほう」で学習し、真の友情について考える「明るくなった友だち」につなげていきたいと考えている。

こうした学習が、仲間のすばらしさや一人一人のもつ人権の大切さを考え合う人権集会へとつながっていくことを願っている。

(2) 单元の構想



5 本時の学習

(1) 主 題 名 相手を大切に

(2) 主題設定の理由

<ねらいとする価値について>

2 - (1)	礼儀の大切さを知り、だれに対しても真心をもって接する。
---------	-----------------------------

よりよい人間関係を築くためには、礼儀正しく振る舞うことは非常に大切である。ちょっとした言葉の行き違いから、互いに傷ついて気まずい関係になってしまい、なかなか修復できないというようなことも起こりがちである。だからといって、ただ形だけの礼儀正しさでは、心が通わない。

互いに相手の立場を思いやり、人として尊重していく心が形となって表れたものが礼儀である。言葉が互いの気持ちをよくし、楽しく生活するうえで大事なことを理解し、大切に言葉をつかっていこうとする態度を身に付けていくようにしたい。

<児童の実態について>

本学級の子どもたちは個性豊かな児童が多い。また、明るく元気いっぱい自分の感情をストレートに表す。自分の感情のままに振る舞う傾向があるので、相手のことを考えない言動で友達を傷つけてしまったり、けんかになったりしてしまう。自分が悪いと分かっているにもかかわらず、相手の態度を問題とし、素直に自分の言動をふり返り、謝ることができないときがある。

そこで、「ありがとう」「ごめんなさい」など相手の立場を尊重した言葉が、楽しく気持ちのよい人間関係をつくるだけでなく、自分自身を成長させることに気付かせ、真心をもって人に接しようとする心情を育てたい。

<資料について> 資料名「言葉のまほう」3年生のどうとく（文溪堂）

主人公は、新発売のゲームソフトを買いに行き店先で男の子とぶつかり、どなり合って帰った。次の日、スーパーでぶつかった別の男の子は、丁寧な態度で精一杯の謝意を表し、主人公もにっこりする。このような2つの経験から、相手のことを思いやる言葉かけや態度が、楽しい生活を送るうえでどんなに大切かを考えていく資料である。言葉や態度一つで自分も相手もこんなに違うのだと気付く、はっとする主人公の心の中を見つけることで、ねらいに迫りたい。

<授業の工夫について>

① 資料提示の工夫

読み物資料であるが、子どもたちの意識のつながりと集中力の高まりをねらうため、場面絵を提示しながら進めていきたい。

② 役割演技

相手の気持ちを思いやる言葉や態度の大切さを役割演技を通して考えさせたい。演技をした児童に気持ちを聞き、周りで見えていた児童にも気持ちを聞くことで、実際に体感させたい。

③ 生活をふり返る時間

「今日のうれしい言葉、心に残った言葉」の活動の中から、児童がこれまでに体験した事例を紹介し、資料の主人公と重ねながら、相手の気持ちを考えた言動のよさについて意見を出し合いたい。

(3) ね ら い

真心をもって接することの大切さに気づき、相手の気持ちを思いやる言動をしようとする態度を養う。

(4) 展 開

学 習 活 動	児 童 の 思 い	指 導 上 の 留 意 点
1 うれしい言葉やいやな言葉を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ● いっしょに遊ぼうと誘ってくれてうれしかった。 ● えらそうに言われて腹が立った。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 普段使っている言葉を想起させ、ねらいとする価値に関わる意識を高める。
2 資料「言葉のまほう」をもとに話し合う。 (1) 店先で男の子とぶつかり、ついでなってしまったときの主人公の気持ち (2) 家に帰っているときの主人公の気持ち (3) スーパーでぶつかった男の子がすぐに謝り、ミカンを拾ってくれたときの主人公の気持ち (4) はっとしたときの主人公の気持ち	<ul style="list-style-type: none"> ● いたいじゃないか。 ● よく前を見ろよ。 ● 悪いのは君だろう。 ● はやくあやまれよ。 <ul style="list-style-type: none"> ● 腹が立つなあ。 ● あの子が悪いんだ。 ● 楽しい気持ちが台なしだ。 (演技者) ● こっちこそ、よそ見をしてごめんね。 ● 拾ってくれてありがとう。 (参観者) ● 見ていて心が温かくなった。 ● 「ごめん」っていい言葉だな。 ● あのときもすぐにあやまればよかったな。 ● みかんを拾ってくれたときは、気持ちよかったしうれしかったな。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 場面絵を提示しながら話を進め、主人公の気持ちをつかませる。 ● 好きなゲームを発売日に買って、早く遊びたいという気持ちがいっぱいだったことをふまえて考えることができるようにする。 ● 相手を思いやる言葉かけや態度がとれないと、自分も相手も傷つくことに気付かせる。 ● 心からの謝りの言葉と態度から、相手の気持ちが伝わってくることに気付いた主人公の気持ちに共感させる。 ● 言葉遣いだけでなく表情や態度にも留意させる。 ● 相手の気持ちを思いやることの大切さに気付かせ、主人公の気持ちに共感できるようにする。
3 自分たちの生活を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ● やさしい心になれた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分たちの体験を話し合い、実践への意欲を高める。
4 「一つのことば」の詩を朗読する。		<ul style="list-style-type: none"> ● 相手の気持ちをよくする言葉のよさが心に残るようにする。

(5) 評価の観点

- はっとしたときの主人公の心の中に共感できたか。
- 言葉一つで、自分も相手もいやな気持ちになったり、気持ちよくなったりするのだからということが理解できたか。
- 相手の気持ちをよくする言葉を考えて使っていこうとする意欲が高まっているか。